

令和4年度第1回京都市美術館協議会 摘録

1 日 時

令和4年11月8日（火） 午後3時30分から午後5時まで

2 場 所

京都市京セラ美術館 講演室

3 出席者

(1) 委 員

ア 会 場

小山田徹委員、雑賀和美委員、阪脇郁子委員、篠原資明委員、
島田康寛委員（会長）、白波瀬誠委員、建畠哲委員、田中冬一郎委員、
土橋靖子委員、東岡由希子委員、福永治委員、細見良行委員、
吉水絹代委員、渡辺信喜委員

イ オンライン

加須屋明子委員、藤澤浩一委員

※ 委員の互選により、島田委員が会長に就任した。

(2) 京都市

吉田良比呂副市長、山中博昭文化芸術政策監、青木淳京都市京セラ美術館長
ほか

4 傍聴者

5名

5 次 第

(1) 開 会

(2) 委員紹介

(3) 挨拶（副市長 吉田良比呂）

(4) 挨拶（京都市京セラ美術館長 青木淳）

(5) 議 事

ア 令和3年度事業報告及び令和4年度事業について

イ その他

(6) 閉 会

6 議事摘録

議 長	<p>令和4年度第1回京都市美術館協議会の議事に入る。</p> <p>はじめに、議案書の「令和3年度事業報告及び令和4年度事業について」を事務局から説明いただく。</p>
事務局	<p>(1) 京都市京セラ美術館 概要</p> <p>(2) 令和3年度及び令和4年度事業について (展覧会・貸館・美術品の収集・調査研究・教育普及)</p>
議 長	<p>委員から、ただ今の報告に対する御意見等があればお伺いしたい。</p>
委 員	<p>教育普及に関しての質問であるが、ここは岡崎学区、近衛学区等が近くにあり、錦林小学校や岡崎中学校や近衛中学校など、すぐ近くに様々な教育施設がある。その先生方と話す機会があるが、なかなか子どもたちが美術館に足を運ぶ機会を学校自体も作れていないとのこと。コロナもあったのでさまざまな障壁があるのは理解しているが、京都芸術教育コンソーシアムの取組や職員の参加の仕方はどのようなものであったのか、小中学生がもっと美術館に来れるような取組はラーニングの中でどのように計画されているのかをお伺いしたい。</p>
副館長	<p>当館におけるラーニングの取組として、ラーニング・ツール「名画との縁結びシート」を作成しているが、このツールを学校の授業で役立てていただくべく取り組んでいる。これは、学芸員が学校に行き、その場で授業を行うものではなく、学校の先生にツールの使い方を御説明のうえ、先生に授業の中で使っていただくものである。</p> <p>最近小学校では、児童全員にタブレット端末が配布されているので、授業のデジタル化が可能となっている。コレクションルームの動画とラーニング・ツールを使って、学校の授業の中で、動画を見ることで美術館に行ったように絵画を見て、その絵画についての子もたちの意見等を引き出すような取組を行った。</p> <p>令和2年度は試行的に実施し、令和3年度以降はさらに取組を広げていけるよう、京都芸術教育コンソーシアムに参画している教育委員会と連携して取組を続けている。令和4年度は「ぼよよんデイズ」という取組を実施しており、京都芸術教育コンソーシアムに参画している大学の先生や学生に御協力いただき、ラーニング・ツールの体験会や、空いている展示室において実際にツールを使った子どもたちの意見や、訪れた方々の鑑賞についての意見を聞いたり、鑑賞のポイントを大学の先生を含めてお話をさせていただいたり、京都芸術教育コンソーシアムへの参画を通じて、美術系の大学の先生方や生徒、小中学校の先生方との繋がりを持ち始めているところである。</p>

委員	<p>展覧会を非常に楽しく拝見している。議案書5ページ「運営体制」の、下段「広報や資金調達など、民間の人材、ノウハウが活かせる部門については民間活力の導入を視野に」について、現在、京都市の財政状況も厳しいと思うが、具体的に考えておられることがあれば教えて欲しい。</p>
副館長	<p>民間活力の導入については、京都市美術館将来構想にも掲げられているが、運営形態の在り方については、今後の課題として認識している。現時点では事業企画推進業務の中で広報や営業等を委託しており、営業面ではMICE利用等について実績が上がっている。新たなユニークベニューとしての活用に向け、当館を御利用いただくための営業活動を、民間の知識をお借りして実施しているところである。</p>
委員	<p>令和3年度にも美術品の収集について、版画182点はこういった経緯で収集されたのか。内容も含めて御説明していただきたい。</p> <p>また、京都市京セラ美術館メンバーシップの個人会員は順調に増加しているが、法人会員が、脱退等もあって少し減少してきている。美術館の運営のための資金を獲得するため、法人会員の方や他の方へ積極的にお声がけをしていただき、できるだけ法人会員が増えるようによろしくお願したい。</p>
学芸係長	<p>現在788点の版画作品を所蔵している。令和3年度に182点という非常に多くの御寄贈を受けており、ZERO COLLECTION という版画コレクターの方の西洋版画、主に20世紀のシュルレアリスムとかウィーン幻想派の作家の方々のコレクションをまとめて御寄贈を受けた。それ以外には作家から直接購入、又は御寄贈をいただいている。</p> <p>展覧会開催の機会に収集活動につながる事が多く、展覧会に出品したものを中心に購入や御寄贈に至ることが多い。一樣には収集方法を御説明することは難しいが、そのような収集方法で点数が増えている。</p>
副館長	<p>友の会からメンバーシップにリニューアルして以来、法人会員という枠組を設けて美術館を支援していただく仕組みを作っている。法人会員の方々には個人会員の方々よりも金額的に大きな部分となっており、大変ありがたい御支援をいただいている。会員になっていただいたからには美術館に親しんでいただいて美術館を活用していただく、例えば、企業の顧客の方へのサービスに美術館を使っていたり、美術のことを社員の方に知っていただくような交流をするなど、会員となったメリットを感じていただく必要があるのではないかと考えている。そのような取組もコロナ禍ではなかなか進んでいなかった</p>

	<p>が、御意見をいただいたように、今後さらに法人会員を獲得するために美術館としても努力をしていきたいと思っている。</p>
委員	<p>森村展の時に使われたカーテンが非常に良いものであるにも関わらず処分されるのは惜しいということで、森村氏がアイデアを集めていると聞いた。非常に面白い試みであり、それを使って展覧会等を実現できれば良いなと思っていた。何かその後の経過を御存じであれば伺いたい。</p>
館長	<p>森村氏は後始末ならぬ「アート・シマツ」というプロジェクトを実施されており、現在、活用案を募集されているところである。250ほどの案が出ていると聞いている。例えば、クロスやカーテンとして使いたい、他には演劇で使いたいなど、色々な方が色々な使い方をする案が出ている。</p> <p>すべての案を採用することは難しいと思うが、展覧会で使われたものが色々なところで別々の形で散り散りになっても存在することになり、使われる場所や方法をリサーチすること自体がプロジェクトになるものと思う。</p>
委員	<p>その後のプロジェクトの結果等を調査していただいで、広くお知らせいただければと思う。</p>
委員	<p>私自身、東山キューブを見てから他のコレクション展等を見る習慣がついているが、東山キューブと本館が、それぞれの美術館として存在しているような気がする。それはそれで別個の機能が加わったということでよいのかもしれないが、もっと融合してお互いに相乗効果が生まれると望ましいと思う。</p> <p>答えにくいことかもしれないが、本日御出席の多くの方が関心をお持ちかと思うのでお伺いできればと思う。</p>
副館長	<p>我々も新館と本館は別の館のようだと聞き及んでいるところであるが、実際に運営をはじめて以来、融合は課題であると認識している。</p> <p>どのような形の融合となるのかは、今後検討することになると思うが、現時点でもそもそも新館を別のものとして考えることはしていない。本館・新館を合わせて全体を1つの美術館として、運営の在り方をはじめ、年間スケジュール、展覧会構成を考えていくものと認識している。皆様方に御心配をおかけしているところではあるが、より良い形になるように検討を進めてまいりたいと考えている。</p>
委員	<p>京都市美術館は京都国立近代美術館の目の前にある美術館であり、つい比較してしまう。大きな施設で予算も大変かと思うが、よくやっているという印象である。</p>

	<p>美術品の貸出について、説明ではコロナ禍であったこともあり減少しているとのことであったが、所蔵品を約4,000点もお持ちなのに貸出件数16件はいかにも少ないと感じる。なお、京都国立近代美術館では昨年度で50件、548点である。京都市美術館のコレクションを考えると日本全国にかなり大きく貢献できるのではないかと。1件につき何点までと制限をもっている等、様々なことがあるかとも思うが、実際リクエストがあるものには応えているのか。</p> <p>また、京都国立近代美術館では年度の途中から開館時間を変更し、京都市美術館にあわせて10時～18時とした。前は9時30分～17時としていたが、入場者数等を踏まえ、10時～18時でいいのかどうか、あるいは夜間開館はどうお考えか、そのあたりの感触をお聞かせいただければありがたい。</p>
学芸係長	<p>貸出についてだが、貸出点数等の制限等はなく、基本的には御依頼があれば積極的に貸し出す方針をとっている。ただ、リニューアル後にコレクションルームをスタートさせたので、そちらに出品する予定の作品に対する御依頼についてはお断りしている。それにしても多くのお断りをしているということはなく、減っている理由等は定かではない。リニューアル前によくコレクションをまとめて貸出することはしており、その際に貸出件数が増えたことはあったが、そのような展覧会が最近開催されていないことも理由の一つかと思う。</p> <p>引き続き、積極的に貸出しは行ってまいりたい。</p>
副館長	<p>開館時間の件に関して、当館もリニューアル後10時～18時という開館時間に変更したが、実際のところ夕方の時間帯の御来館者数は少ないと感じる。特に御高齢の方は朝早い時間に御来館されることが多い。</p> <p>令和3年度のエジプト展開催の際にコロナの影響で休館することとなったこともあり、会期末に前後1時間ずつ延長開館を行った。結果として、朝の時間帯は多くの方が並べられたが、夕方の最後の枠は少し余裕のある状況であった。</p> <p>現状では、夕方よりも早い時間帯の方が来館者は多いのではないかと。元々、リニューアル前は外国人観光客が非常に多く、夜の賑わいが少ないという声を受けて、できるだけ遅くまで開館しておくという方針もあり、現在の開館時間が検討されてきた経過がある。コロナの状況が収まり、通常の状態に戻った時の状況を踏まえて、改めて開館時間について考える必要があるという認識である。</p>
委員	経過等情報を交換しながらどのように運営したら良いか、お互い研

	究していければと思う。よろしくお願ひしたい。
委員	私自身、美術館に行く前は電話にて混雑状況を問い合わせるが、インターネットで混雑状況や入場の待ち時間が表示されていれば、より柔軟に予定を組むことができるのでそのようなシステムがあればよいと思う。
副館長	現在、リアルタイムで分かる状況にはなっていないが、予約優先制を導入して以来、実際にそれを活用するような展覧会では、「現在お越しただいた方は何時何分の入場枠です。」といった内容をホームページに掲載している。しかしその案内が無い際にスムーズに入れるかが、分からないとも思うので、お客様サービスの観点で、どのようなことができるか検討課題とさせていただきたい。
委員	<p>前もお伺ひしたかもしれないが、作家の1人として伺う。歴史ある「京展」であるが、美術館の案内を見ると、「実施については検討中のため御理解ください。」とある。京都は大学が多いまちであるが、若い人の発表の場がない。卒業後、力もないのでいきなり公募展には出せないし、京展が登竜門のような位置付けではないかと考えている。自身も4年生の際にしか出せず、京展に応募し、その後公募展に出すようになった。若い人の発表の場として京都もそのような場ができたらと考える。歴史ある「京展」に復活いただき、若い人や、美術団体に所属していない人が個人で発表する機会を創出してもらいたい。自身も「京展」で育ったのでそのような場をぜひつくってもらいたい。</p> <p>京都には作家がたくさんいる。当方は日展の会員であるが、日本画、工芸作品の出品者、入選者が多くいる。小さなギャラリーに展示して満足するのではなく、やはり大きく立派な美術館で様々な作品と一緒に自分の作品を並べることが勉強になるのではないかと思う。</p> <p>私もよく京都市美術館に来たときにはコレクションルームを見る。これも良い機会だと思って必ず寄るようにして見ている。展示スペースも前よりも広がったし非常に良くなったと思う。</p> <p>「京展」の開催についてぜひとも前向きに考えていただき、開催の検討を何卒よろしくお願ひしたい。</p>
副館長	「京展」については再整備前には毎年開催していたが、再整備に着手して以降休止という形をとっている。今後についてはまだ検討が進められていない状況にあるため、委員からいただいた御意見等も念頭におき、今後、検討を進めてまいりたい。
委員	コロナで大変な状況においても様々な事業を実施され、非常に賑わっており、素晴らしいなという思いで聞かせていただいた。

	<p>実際にコレクションルームができたことで、コレクションの活用も実現されている。そこでは同時代の作家たちもそこに入ってくることで、文脈が作られていることもとても重要なことだと思う。そしてトライアングルの作家たちの紹介も素敵であり、ぜひ続けていただきたい。ラーニングやオンラインの活用など、とても盛り沢山であるが、学芸員の方が9名という体制で非常に大変なのではないかと思いつつ聞いている。例えばインターンやボランティアの活用や、学芸員の増員はされているのか、例えば東山キューブとの連携等もあってもよいかと思う。</p>
副館長	<p>現時点でボランティアの方やインターンの方に、学芸の補助的な業務をお願いするというような取組はできていない状況である。</p> <p>なお、トライアングルについては、作家選定は本市の学芸も加わって行っているが、運営は、現在東山キューブを担っていただいている外部の方をお願いしている。また、ラーニングについても外部の方を入れ、取組を進めている。</p> <p>リニューアル後の美術館は大変規模が大きくなっており、学芸員の充実については美術館としては切実ではあるが、京都市全体としては増員はなかなか厳しいところである。美術館としては今後もできる限り充実していきたいところである。</p>
委員	<p>京都の外にいと京都というブランド1個に見える。それほど広い市域ではない京都には京都国立博物館や京都国立近代美術館など様々なミュージアムがたくさんある。例えば文化庁の関連でコネクトを実施されたり、様々な施設との間でコラボレーションをされていると思うが、もう少し展覧会そのものにおいて立体的にコラボレーションすることで、京都というまちのスケールメリットを活かした展示ができると面白いと思う。</p> <p>京都の外にいる者からすると、そのようなある種のスペシャル感をもったもので訴求してもらえると面白いのではないかと。</p>
議長	<p>時間が押してきたので、ここで一旦切りまして、後半部分の説明を事務局をお願いしたい。</p>
事務局	<p>(3) 令和3年度及び令和4年度事業について (広報・情報発信／来館者サービス／アメニティ施設／他館との連携／メンバーシップ／MICE利用／入館者数の推移／決算・予算)</p>
議長	<p>ただ今の報告に対する御意見、その他これまでの議事全般について何かあればお伺いしたい。</p>
	<p>(質疑なし)</p>

議 長	特に出ないようなので、これにて議事を終了とする。
-----	--------------------------